

リリースノート

製品： DocAve® 5.1.1.0

リリース日時： 2009 年 1 月 21 日

パッケージ リスト： パッチ パッケージ（マネージャーとエージェント含む）；
デモ パッケージ（マネージャーとエージェント含む）

新機能と強化点

データ保護

- ・ 高可用性フェイル オーバー プラン
DocAve 高可用性モジュールでは、コマンド ライン インターフェイスを使用した DocAve フェイル オーバー プラン を呼び出すことで、障害復旧をスクリプト化できます。これにより、既存のデータベース監視システムと新しく作成したスクリプトを統合し、DocAve 高可用性プランで構成済みのスタンバイ データベースを自動的にオンラインにできます。
- ・ 増分バックアップ対応 ” 高速バックアップ”
本機能はこれまでのバージョンでもご使用いただいていたましたが、本バージョン アップに伴いすべての新規 DocAve インストールに対して既定の設定となりました。既存のユーザー様で有効化の詳細情報をご希望の方はユーザーガイドを参照いただくか、弊社サポート担当までお問い合わせください。

管理

- ・ 全体管理モジュール内のセキュリティ トリミング
本機能では、サイト コレクション管理者が、SharePoint 管理製品である DocAve 全体管理を使用することで、SharePoint コンテンツを管理できます。サイト コレクション管理者は DocAve へ AD アカウントを使用してログインするので、管理権限を所有するサイト コレクションおよびコンテンツのみを参照可能です。
- ・ エンド ユーザー拡張アーカイバ サポート
DocAve はエンド ユーザーおよび SharePoint パワー ユーザー自身で、SharePoint からのコンテンツをスタブを作成してから全メタデータを保持した状態でアーカイブすることを可能にし、拡張アーカイバに更なる改善を加えました。ユーザーはアイテムまたはドキュメントのプロパティ ドロップダウン リストでアーカイブオプションを確認でき、フル コントロール権限を所有するユーザーはリスト、ライブラリ、サイトおよびサイト コレクションのサイト設定ページを使用して直接アーカイブできます。
- ・ レポート センターで拡張アーカイバの ROI を参照
拡張アーカイバ モジュールを使用して節約した SQL ストレージ容量を効果的に管理する為に、SharePoint 管理製品内のレポート センターで、サイトコレクションのアーカイブ レポート機能が追加されました。
- ・ HTTP/HTTPS を使用したエクストラ ネット対応レプリケーション
追加ポートを開くことなくファイアウォールを越えてファームから他ファームへ SharePoint 環境をレプリケートする際、DocAve を使用して他のファームへ HTTP および HTTPS を介したコンテンツのレプリケーションを実施できます。本レプリケーション機能を使用するためにマネージャーを追加する必要ありません。
- ・ コンテンツ マネージャー、レプリケーター、および導入マネージャーにてユーザー データ のサポートを追加

コンテンツ マネージャーでのユーザーとドメイン マッピングだけでなく、レプリケート先に該当ユーザーが存在しない場合も含め、レプリケート元からレプリケート先へのメタデータを保持したレプリケーションをサポートします（上記記述モジュールすべてを対象）。これにより、コンテンツ移動の際に非アクティブ ユーザーが” システム アカウント” へ置き換えられることがなくなります。

- ・ AD 削除済みアカウントの整理とユーザー権限の転送
SharePoint 内の権限を所持しているにも関わらず存在しなくなった、もしくは非アクティブ化されているユーザーを検索し、権限を削除および新規ユーザーへ転送できます。AD 削除済みアカウント検索から、個別に権限を転送することも可能です。

コンプライアンス

- ・ コンプライアンス アーカイバ対応：検索サポート追加機能
アーカイバ機能内でのコンテンツ検索範囲が Web アプリケーション レベルまで拡張され、検索方法として Boolean 検索もサポートされます。

移行

- ・ 簡単な XML インポートとエクスポート作業
ユーザー、コンテンツ タイプそしてその他のアイテムを一括で編集する際、DocAve では外部の XML エディタをサポートします。すべての移行マッピング プロファイル下部にある新機能を使用することで、簡単に XML ファイルをダウンロードおよびアップロードできます。

一般

- ・ スケジュールされたジョブ モニター
スケジュールされたジョブ モニター機能では、効果的なメンテナンス スケジューリングと今後のプランの表示ができます。
- ・ EMC Centera ストレージ サポート
DocAve 論理ドライブ構成メニューから EMC Centera で管理するストレージ デバイスを定義できるようになりました。更に、シングル インスタンス フォーマットを使用してデータを保管し、アイテム レベル バックアップや拡張アーカイバ データを EMC Centera のディ・デューブ機能を活かしてドライブに保存することで、ディスク容量を節約し、効果的に管理することができます。

バグ修正

データ保護

- ・ プラットフォーム レベル バックアップでスケジュール済みのプラン編集
スケジュール済みのプランを編集後、選択された対象を問わず、次のバックアップ サイクルが完全バックアップを実行されていましたが、本バグは修正され、差分および増分バックアップを選択後、適切なバックアップが実行されます。
- ・ 電子メール ジョブ レポートでの不適切なデータ表示
インデックスの最小単位レベルおよびバックアップした Web の合計数に NULL が表示されていました。
- ・ Web アプリケーションとコンテンツ データベースの [別の場所へ] のリストア
Web アプリケーションおよびコンテンツ データベースのバックアップをプラットフォーム レベルで [別の場所へ] リストアする際、リストア後、新規データベースに対し、新しく設定したデータベース名が反映されず、元のデータベース名が表示されていました。

管理

- ・ SSP 上でのユーザー プロファイルを保持したコンテンツの移動
コンテンツ マネージャー、リストア コントローラーおよび導入マネージャー モジュールを使用する際、フラグを立てることで、SSP に保存されたユーザー プロファイルを含むコンテンツを移動できます。

一般

- ・ ユーザー インターフェイス用 1280 x 800 ディスプレイのサポート
以前のバージョンで 解像度の低い GUI 表示に問題がありましたが、更新後、フルスクリーン モードを使用することができます。

既知の問題

データ保護

- ・ SSP の差分バックアップから [別の場所へ] のリストア
プラットフォーム レベル バックアップ モジュールでの SSP の差分バックアップから [別の場所へ] のリストアは本バージョンではサポートされていません。
- ・ EMC Centera バックアップのファイルシステムへのリストア
EMC Centera デバイスに保存された最小単位バックアップはファイルシステムへ直接リストアすることはできません。まず SharePoint 環境へリストアし、そこからダウンロードする必要があります。

一般

- ・ コマンド ライン インターフェイス機能対応 : SSL サポート
現在、お使いの DocAve マネージャーとエージェント間で SSL 通信をご使用の場合、高可用性エージェントおよび導入マネージャー CLI インターフェイスをサポートするには、一度マネージャー サービスを再起動する必要があります。([マネージャー構成ツール] へ移動し、[確認] ボタンをクリックします。)